

講評

例年と同様、問1に60点、問2に40点の100点満点としました。受験者の採点結果及び成績分布は下にまとめましたので、参照してください。問題の配点ですが、問1は1-1、1-2ではそれぞれ15点を、1-3、1-4、1-5ではそれぞれ10点を満点として採点しました。

大問1では1-2において、独占企業の利潤最大化行動をきちんと記述できていない答案が多く見受けられました。この問題では、完全競争時とは異なり企業が生産量（価格）を変化させた時の価格（生産量）の変化まで含めた利潤の最大化を考える必要がありますが、完全競争と混同して利潤最大化問題を解いている（均衡で価格＝限界費用が成立する、等と記述する）答案が多数見受けられました。独占企業の行動については、ミクロ経済学I・IIで扱う基本的な事項の一つですのでしっかりと身につけてください。

今回の試験では、そのまま採点すると極端に合格率が低くなるので、相当甘めにつけました。標準的な利潤最大化問題ができれば、1-1、1-2で30点、それができればさらに1-4もわかるので、問題1で40点、そして問題2で半分書けたら20点ということで、60点を取ることは難しくないと思っていました。

採点結果

	全体	3回生	4回生他
平均点	60.91	60.34	62.12
合格率	60.26	56.60	68.00

得点分布

